

第2回品川区総合戦略策定委員会 議 事 概 要

日時：平成27年10月1日（木）14:00～16:00

場所：品川区役所 本庁舎5階第五委員会室

議事次第

1. 開会
2. 幹部職員の紹介
3. 委員長挨拶

■委員長

- ・ 第2回品川区総合戦略策定委員会を開催する。今回から、2回にわたり計画の内容について議論する。充実した審議を行っていきたいと思う。
- ・ 内容に入る前に、前回欠席された委員から一言ご挨拶いただきたい。

■副委員長

- ・ 清泉女子大学地球市民学科で教えており、アメリカ・アフリカに学生を連れて行くほか、10年以上現場で学ぶことを意識しており、品川区の高齢者施設、児童センター、商店街などに出かけ、学んでいる。
- ・ この委員会には、いろいろな分野から専門家が参加している。有機的に新しいまちづくりができたらと考えている。効果的な議論がフランクにできたらと思っている。

■委員

- ・ 東京商工会議所品川支部を代表して参加している。荏原法人会、しながわ観光協会の手伝いもしており、地域の事業所と深く付き合っている。品川区は町工場、商店街のまちであると考えている。その声を代弁するよう発言していきたい。

4. 品川区の人口の現状分析およびアンケート調査結果についての意見交換

＊事務局より資料No. 3から資料No. 5までについて説明

■委員長

- ・ 本委員会は人口減少に対応するための戦略策定を目的にしており、この人口分析が基礎資料となる。
- ・ 外国人の人口推計について、東日本大震災による外国人口の減少をイレギュラーと考え、それ以前の増加していた動きを基礎に、少し上積みした推計を行ったということか。

■事務局

- ・ 外国人人口については、平成23年の東日本大震災の影響により極端に減ったことを加味すると、過去の傾向と異なる動きになってしまうので、人口が増加していた時期を鑑

みて、緩やかな増加が続くと分析した。

■委員長

- ・ 資料N o. 3の1ページにある年齢階級別にみた人口移動の状況について、減少の原因について分析しているのか。平成21年と平成26年の年少人口の変化について、直感的・体感的な理由はあるか。

■事務局

- ・ 平成21年と平成26年の年少人口を比較すると転出が多く、また、35歳辺りの年齢層の転出超過が目立っている。正直に言うと、このことについてはもっと分析がいる。転出の増加は、保育園が足りないことなどが理由として考えられるが、もう少し分析をする必要がある。

■委員

- ・ 資料N o. 3の1ページにある転入等の推移について、昭和58年前後と平成19年は転入数が多い。大規模開発等による住宅の増加などの特別な理由があるのか。

■事務局

- ・ 昭和58年前後の転入者の増加理由は、八潮団地の造成である。平成18年から平成19年の増加については、特定しきれないが大崎地区や品川地区の大規模開発によるマンションの造成によると考えられる。

■委員

- ・ 大規模開発によって集合住宅が増えると、何千人という転入者が見込まれる。武蔵小山や海浜地区でも大規模開発の計画があると聞いており、先を見据えて様々な計画を立てていけばよいと思う。

■事務局

- ・ 人口推計を前回の委員会でも示しているが、想定される大規模開発による影響は加味した推計を行っている。しかし、地区別での影響は大きく、それをどう計画に対応させていくかは検討すべきである。

■委員

- ・ アンケート結果について、無作為抽出により2,000人にアンケートを送付し、回収率が約4割ということだが、これは低いのか高いのか、どう考えているか。

■事務局

- ・ 一般的な民間団体による無報酬の郵送のアンケートは、回収率が2～3割といわれる。回収率が4割を超えたというのは、高い方であるが、もう少し回収率を上げたかったと考えている。

■委員

- ・ 自分にアンケートが届いたとしたら、区政に役立ちたいと必ずアンケートに回答するため、回収率が約4割であるのは少なく感じたが、一般的に見ると高いのであれば、それは構わない。

5. 品川区総合戦略のたたき台についての意見交換

＊事務局より資料No. 6について説明

■委員長

- ・ 一人ずつ意見を伺いたい。

■委員

- ・ 品川区は、出生数の増加により自然増となっており、日本全体の現象とは逆転している。これは、品川区が優れた地域性を持っているからであろう。しかし、日本全体としては人口が減少している。経済的にも社会活動としてもつながっているため、品川区だけ増えればいいということではない。他の地域に、品川区のノウハウ等を事例発表し、貢献していくことが重要である。
- ・ ここ数年、地域のお祭りや近隣の居住環境をみると、子どもが増えていると実感しており、素晴らしいことであるが、外で安全に遊べる場所が少ない。路地や空き地での遊びは危険である。また、防災広場ばかりで、遊具もなくつまらない。

来年から18歳から選挙権を持つ。若い世代のための施策を充実させることがより重要になってくる。

■事務局

- ・ 防災広場は、住宅密集地には重要なものであり、遊具はメンテナンス等の問題もあるが、子どもが安全に遊べる場所の確保についても検討したい。
- ・ 若い世代に選挙に関心を持ってもらうよう高校で出前授業を行い、模擬選挙を体験してもらうなど、啓発に努めている。

■委員

- ・ 子どもや若い世代がお祭りに参加するようになったと実感している。お祭りなどの地域のイベントは、区民が生活するうえでの楽しみで、ここに住んで良かったと感じられるものである。商店街でも盆踊りやジャンボのり巻きなどを実施しており、品川区や東京都の支援はありがたい。
- ・ 商店街の収入源である会費をコンビニエンスストアやチェーン店のドラッグストアは支払ってくれないことが多く対応に苦慮している。区の条例で商店街への加入を義務付けるべきという人もいるが、商店街や区商連で協力してもらえるように、働きかけたい。同じ地域で共に生活や商売を行う者同士、最低限のマナーやモラルが守られるようルール作りも必要かと考えている。
- ・ 商店街を維持するためには、様々な経費がかかっている。街路灯の電気代については品川区から助成があるが、街路灯が劣化した際の補強や防犯カメラの維持費等、目立たないところに経費がかかる。地域で一体となって、街を守っていけたらよい。

■委員

- ・ 金融機関にとって、産業の活性化が一番大きなテーマである。人口増加も産業の活性化があつてのことである。品川区は武蔵小山創業支援センター・品川区産業支援交流施

設（SHIP）など、創業支援が充実しているが、インキュベーション施設は満室なのか。

- ・ 品川区で創業する、2年目・3年目の創業して間もない成長力のある企業を呼び込むことが重要である。安い賃料で施設を開放し、宣伝する。生まれる企業の中から爆発的に成長する企業が出てくる。軌道に乗ればその後も留まり、納税にもつながる。
- ・ 空室対策と連動して、企業を呼び込む工夫はできないか。例えば、インキュベーション施設に入る際に、賃料を抑える代わりに、町会・自治会に加入させることを条件にするなど。金融機関としても協力していきたいと思う。
- ・ 品川区に勤めているが、品川区がどういう施策を行っているのか知らない。本委員会ですべて品川区の施策を知った。品川区の住民であり品川区に勤めている人でも、仕事しかしていないから品川区が行っていることを知らない。事業者と一体となって品川区のPRをしてはどうか。品川区の企業のホームページに区のホームページのリンクのバナーを貼り、品川区全体を押し出すことはお金をかけずにできることである
- ・ 品川区のホームページで、日付をクリックし、品川区や企業のイベントが一覧で掲載されていると、土日に何をして過ごそうかと考えている人が近所のお祭りやイベントに行ってみようと思うのではないか。それが、毎日、品川区のホームページを見ようとなっていて、品川区の人口増加や経済活性化に繋がり、区内全体を高めていけるきっかけとなるのではないか。

■委員長

- ・ 前回の委員会でも品川区の施策のアピール方法について指摘があった。
- ・ 総合戦略のたたき台に「創業支援センター」と「空き家対策」について記載があるが、区から説明があるか。

■事務局

- ・ 創業支援センターの現状であるが、西大井とSHIPは満室である。天王洲は入れ替わりの関係で空きがあるが、ほとんど満室である。西大井に入居後に卒業した40社は、ほとんどが品川区内で起業している。インキュベーション施設を利用した企業の事業継続率は約4割といわれているが、比較的順調だと考えている。
- ・ 産業活性化には創業支援が重要であり、新しいSHIPと創業支援センターを連携させながら活性化をしていきたい。また、品川区内の金融機関の力も借りながら進めていきたい。

■事務局

- ・ たたき台の「空き家対策の推進」の計画内容は、管理不全の空き家の解消と空き家の有効活用であるが、空き家の有効活用は大きな視点である。区としてこういった施策ができるか今の事例なども参考に検討する。

■委員

- ・ たたき台では、様々な事業をピックアップしているが、具体的にはどう打つのか。平

成 31 年度の K P I に至るまでの 1 年、場合によっては半年毎に、P D C A をしっかりと回し、軌道修正を行うことが重要である。また、K P I の設定であるが、区民の反応・感想をうまく取り入れながら、5 年先までに軌道修正することが必要であろう。

- ・ 情報を区民にどう伝えていくかは重要であり、きちんと伝わるしくみづくりが大切である。区民だけでなく、働きに来ている人に区の情報をいかに伝えるかも課題だと考えている。

■委員長

- ・ K P I についての発言が出たので、事務局から指標について区の考えを説明してほしい。

■事務局

- ・ 国から、総合戦略の策定にあたっては、K P I（重要業績評価指標）という指標を設定し、毎年、丁寧な検証を行い、必要な場合は修正し、また、確認時には本委員会のように外部の方の意見を聴くよう考えが示されている。P D C A サイクルをしっかりと行い、常に戦略は状況に適した新しい状態にすることが求められている。

■委員

- ・ それぞれの町会・自治会で様々な行事を行っているが、行事の半分は共通で、半分は独自のものである。子どもを対象とした行事を行うと、30～40 代ぐらいの父母も参加するが、防災訓練、防犯や交通安全の行事では、30～40 代の参加者は少なく、地元で育った 60～80 代が中心になる。町会活動を次の世代に繋げるために、子どもや 30～40 代の住民も様々な町会活動に参加してもらいたいと、どこの町会も苦慮している。今日の議題の中でも、やはり、町会・自治会が細かな面で見ていく必要がある。

■委員

- ・ たたき台に、「しながわネウボラネットワーク」という名称が出てくるが、知識のある人が見れば意味がわかるだろうが、わからない人も多いだろう。わかりにくい名称については、このまま記載するのではなく、区民にわかりやすいものにしてほしい。

■事務局

- ・ たたき台の段階なので、注釈なしで作成したが、公表する際は記載方法に工夫する。

■委員長

- ・ 一般的には難しい名称については、平易な言葉による説明を行う必要があるだろう。

■委員

- ・ 「支え愛ほっとステーション」の平成 26 年度基準数値は、年度末の数値か。8 月末に大井と大崎の 2 地区で増えている。

■事務局

- ・ 平成 26 年度末現在の数値であるが、説明の文章の中で大井・大崎の「支え愛ほっとステーション」について記載できないか、検討する。

■委員

- ・ たたき台を読むまで、品川区が 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催会場になっていると知らなかった。以前、ブラインドサッカーの大会のボランティアをしたことがあり、その際初めてルールや観戦時のマナーを知った。パラリンピックの競技は、まだあまり知られていないが、開催会場である品川区がルールやマナーも伝えていくべきである。

■事務局

- ・ 品川区で開催される競技は、ブラインドサッカー、ホッケー、ビーチバレーボールの 3 競技あり、平成 25 年度から、各種目のフェスタを行い、品川区内で行われる競技であることを周知している。また、ホームページや各種目の出前教室等で周知を行っている。先日は、しながわ中央公園でホッケーフェスタを行い、ホッケーの啓発と区内で行われる競技であることを周知した。しかし、まだ品川区でオリンピック・パラリンピック競技の周知は足りていないと感じている。今後も、より一層工夫を凝らして、周知していく。
- ・ ブラインドサッカーのルールやマナーについては、目の不自由な方だけでなく、子どもに対してのワークショップで体験してもらい、周知のみでなく障害者に対しての理解も深める事業を行っている。毎年、体験事業を行っていく予定である。

■委員

- ・ ブラインドサッカーの大会のボランティアをした際は、視覚障害者だけでなく健常者の人も大勢観戦に来ていた。ボランティアや会場のアルバイトも、視覚障害者を観覧席に案内する際などのマナーを徹底的に学んだ。ブラインドサッカーの開催会場があるということは、視覚障害者の来訪が増えるだろう。会場に行くまでの道のりとなる商店街なども視覚障害者への対応を考えることが必要である。

■事務局

- ・ 試合にとどまらず、競技会場までの道のりも含め、視覚障害者への配慮を行う。

■委員

- ・ 公園の遊具の話が先ほど出たが、都内で大型の施設で子どもが遊べる場所が少ない。電車で行ける場所に屋外でも屋内でも遊べる施設を考えてほしい。

■事務局

- ・ 品川区は公園を整備しており、子どものアイディアを採用した公園もある。場所の問題等が出てくるが、子どもが遊べる施設についての意見は参考にさせていただく。

■副委員長

- ・ 今回の委員会では、委員の意見から学ぶことが多くあった。
- ・ 人口減少の問題が差し迫っておらず、品川区は他の地方自治体より比較的に優位な立場にある。品川区の総合戦略策定にあたり、品川区にはどのような特徴があるのかと考えるが、ある種何でもあるのが品川区である。多様であるという特徴をどう総合戦略に

活かすのか。多様であるため、たくさんのプロジェクトになってしまうことは、仕方ない。どのように、効果的に行えるのかが問題である。

- ・ 住民はただサービスを受けるだけでなく、リソース（資源）でもある。住民と行政が有機的に関わり協働を進めることが重要である。大学生に品川区で何か活躍するように課題を出すと、大学の最寄駅で「恋するフォーチュンクッキー」を踊り、YouTube に流したところ、評判になり地元の商店街の方に喜ばれた。このように学生も面白いアイデアを生む、リソースとなる。商店街のPR戦略だけでなく、情報戦略や協働についても、有機的につながっていけるのではないかな。

■委員長

- ・ 戦略を効果的に遂行することは、しっかり考えなくてはいけない。

■委員

- ・ 現在の品川区は人口減少の問題に直面しておらず、子どもが増え、地域が活性化している。しかし、人口の構成を見ると、18～30 歳の単身者が転入し、子育て世帯は地価の関係もあるが転出傾向が続いている。子育て世帯の転出に歯止めをかけ、住み続けてもらえるように考えたい。
- ・ 委員の意見にもあったが、全国的には人口減少にあり、品川区の人口が増えているから良いわけではない。地方と共に繁栄できることを、総合戦略の中に何らかのメッセージとして出したい。

■委員

- ・ 品川区からの情報発信の強化はこれまでも課題となっていたが、区に関心がないと発信しても受け取ってもらえないため、大変難しい。
- ・ 品川区長期基本計画との一番の違いは、総合戦略は内向きと外向きに考えないといけない点である。地方は人口減少の問題に直面しているが、まだ都心は危機感がない。品川区としては、将来的な人口減少や危機感を踏まえつつ、地方との連携や配慮を入れたい。

■委員長

- ・ 区民の協力がなければ、これからの人口減少の中では区政は存続できない。いろいろなしくみを作り工夫しなければならない。
- ・ 前回の委員会で議題に上がったが、地方との連携事業については、参加することが楽しい施策を検討し、策定する総合戦略が、その一助になるようにしたい。
- ・ 品川区長期基本計画の改訂にも携わったが、改訂時期がオリンピック・パラリンピックの開催地が決まる前後にあたっていたため、改訂委員会で深く審議することができず、学識委員の中の検討に留まった。人口減少に直面している中でスポーツを振興していくためには、単純に競技施設を整備するハードだけではなく、ソフトの面でも機能するようにと話し合っていた。このことも意識して、総合戦略をまとめていきたい。

■委員長

- ・ 次回は、今回のたたき台を素案レベルにブラッシュアップしたもので、検討を行う。

6. 今後のスケジュールについて

7. 閉会

以上